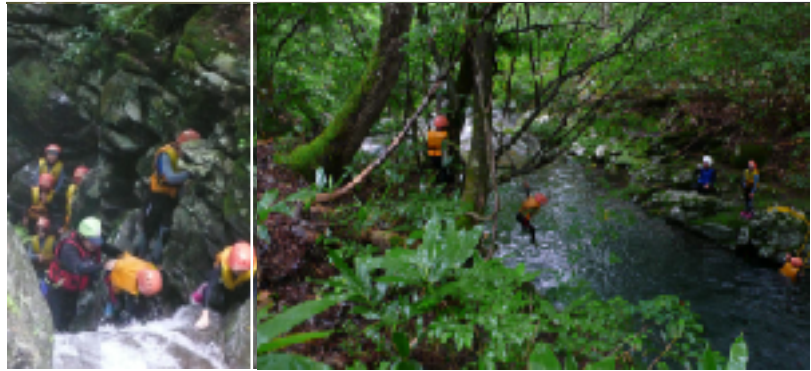


かます 大冒険 活動報告



昨年は子供会行事でしたが、今年は公民館行事として、高鷲北小学校生希望者が、ODSSさんサポートのもと行ってきました。今年はずっと雨が降った後で、川も増水していたため心配していましたが、むしろ自然の川を体験するにはもってこい。ウェットスーツにライフジャケットにヘルメット。安全装備もレンタル出来、専門のガイドが見てくれているので安心です。

私たちは川の側道を歩いて行きましたが、子供たちの楽しそうなキラキラした表情は、一緒にやってみたく思うほど。難所あり、天然スライダーあり、飛び込みあり、プールあり。側道を歩いてついて行くだけでも、実はなかなかの体力を使うので、歩きにくい川を登っていく子供たちは、どれ程大変なのか...

でも川から上がり、帰り着いた子供たちは、口をそろえて「楽しかった～！またやりたい！！」自然の中でひとまわりたくましくなった姿が印象的でした。

側道を歩きながら、子供たちを追っている目をふと上げ...周りを見回すと、今自分がいる場所が本当に自然の真ただ中なのに気がきました。木霊が住んでいそうな神秘的な深い森と、清涼な空気に思わずうっとり。緑のシーズンも良いけれど、紅葉はどんなに素敵だろう。

毎年秋に行われたりするカマス渓谷の散策はこのコース。絶対におススメです。ぜひ一度感じてみてください。

ノルディック・ウォーク & ウォーキング



9月25日、26日の2日間、ひるがの高原ウォークが開催されました。ひるがのの1つでも紹介してきた、ノルディックウォークがメインです。

2日間とも快晴という絶好のコンディションの中、下は小学生から上は95歳の福手豊丸さんまで、遠くは東京や大阪の方まで、延べ300名ほどの方々に楽しんでいただきました。第1回で参加者の反応が心配でしたが、みなさん口をそろえてコースが素晴らしいと絶賛下さいました。次々と見どころがあって気持ちよく歩けたそうです。

自然豊かなひるがのに住んでいても、なかなかゆっくりと楽しんで歩くという機会は少ないものです。健康作りのため、みんなでどんどん歩きましょう！

1日目 [7Km]	コキアパーク → 湿原植物園 → 分水嶺公園 → 源流のブナ林 → 木陰ゾーン → 水道山 → うぐいす台別荘地 → キャンプ場 → 見違い川 → コキアパーク
1日目 [16Km]	コキアパーク → 湿原植物園 → 分水嶺公園 → 折立歩道 → 折立の里(枝豆収穫体験) → 木陰ゾーン → (西洞) → 高鷲スノーパーク → 源流の碑 → 木陰ゾーン → 水道山 → うぐいす台別荘地 → キャンプ場 → 見違い川 → コキアパーク
2日目 [6Km]	コキアパーク → 湿原植物園 → ベっぴんさん角 → アカシヤさん交差点 → 花遊び → 佐藤牧場 → スキー場山頂 → コキアパーク
2日目 [16Km]	コキアパーク → 湿原植物園 → 分水嶺公園 → 折立歩道 → 折立の里(枝豆収穫体験) → お碓い橋 → 上野高原 → クックラひるがの → 牧歌の里 → 板橋地区 → スキー場山頂 → コキアパーク

We love ひるがの

大好きなひるがののこと、聞かせてください ④

バカなひるがの、まただかかっけい、酔っくわる。



上野 聡さん

「お祭男」という言葉がびつたりの上野聡さん。町民運動会のひるがの応援団長の地位(???)を不動のものにし、高鷲ではちょっとした有名人です。そんな上野さんとひるがのの出会いには高校時代。神岡町出身の上野さんは、高山工業高校でひるがのの出身の同級生に出会います。彼からひるがののいいところをたくさん聞かされてました。でも、だからどうってことはなく、卒業後は一宮の会社に就職。ひるがのの話もすっかり忘れていました。そして22歳のある日、バイクで白川郷をめざしツーリング中のこと。国道は山道にさしかかり、続くくねくね道。ただ何の疑いもなくこのまま山奥へと進むつもりでいたところ...。山の上で突然、視界が広がって町が現れたのです。「え、何ここ？ すげー。」これが、ひるがのの第一印象でした。それから間もなく、偶然にも例の同級生から電話があったのです。「ひるがのの営業の社員を探してるんだけど、やってみない？」と。その後は、ひるがのの引力に引っぱられるまま。一宮には結婚の決まった彼女(現在の奥さまです)もいたのに、「迎えにくるから。」と言い残し、白鳥フーズに就職。ひるがのに住み着いてしまいました。そして現在、ひるがのの歴25年。

ひるがののことが良かったんですか？
「ん、かな？バカなことやってても許してくれるから。」
同級生がいたから、夜は一緒に飲みに出かけました。すると「誰？どこから来たの？」と、最初からみんなの反応は温かく、事情を話すと「おまえさ、いいな」と色々気にかけてくれました。バレーボールのチームにも入って、さらにお付き合いは広がり。獅子舞や運動会、その他もろもろ。たぶん本来の性格もあつ、にぎやかな場面に欠かせない人になっていきました。盛り上がるのが大好きで、「もっともっと」とつい前に出て、たまにやりきて...。今まではお叱りを受けたことも。そんな時やっぱ周囲は温かい目で許してくれるのだとか。でもそれは、一生懸命な上野さんをみんな知っているからでしょう。例えば、神社の年越し参りに来る人たちに、上野さんは自腹でソバをふるまっています。「せつかく来たのに、お参りして帰るだけじゃ寂しい。ちよっと寄って、顔を合わせた人が話をする場があったらいいんじゃないか」という思いつき。「巨立ちたいからだよ。」なんて本人は笑いますが、大人が目立つところでは何かやろうとすると、テレやミエが邪魔をして、なかなかできないんです。最前列で笑わせながら、いつの間にかみんながまとまる雰囲気を作っている。さすが応援団長です。

※ところで、運動会に参加した人にはおなじみの応援歌ですが、全部で5曲って知ってましたか？即興でできるのが思いきや、営業の合間の運動中などを利用して、かなり時間をかけて作るんだそうです。できた歌は、まず家族に披露して、OKが出たら発表するそうです。



◎上野さん一家

「こんな人じゃなかったのに。」という奥さま・和子さん。「お父さん、好き？」の問いに「うん。」と即答する次男・ナオヤくん。「おやじとか、息子とか思っていない。」一人の上野聡、一人の上野タカシ、一人の上野ナオヤとして付き合っているというステキなご家族です。

タカシくんは聞いてみました。「お父さんって、どんな人？」「めっちゃくちゃかな。ヤバイ。」ヤバイ。「やばいくらい、かっこいい」という意味です、たぶん。お祭り男の血は確実に受け継がれているようです。

最近、「オシはひるがのには住まない。」と言っていた長男のタカシくんが「ひるがのって、いいじゃん。」と言うようになった、と上野さんがちよっとうれしそうに話してくれました。祭りや獅子舞に参加するようになって、つきあいの幅が広がってきたこと。上野さんちでは、二人の息子さんも一緒に獅子舞をやっています。今年の祭りの前夜祭では、「なぞの集団キョートン」でナイスな若も披露。



今年の秋祭りの上野家での獅子舞。親子三人の舞に、「感動して泣いた」という獅子舞仲間もいたという。ホントです。